

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業	
事業名	狂言公演 ～茂山一門の世界～			
目的・内容	恒例となった狂言公演を引き続き開催することで、愛好者はもとより、広く県民に日本の代表的な古典芸能の鑑賞機会を提供する。平成21年度は、鑑賞者が減少傾向にあった狂言公演も増加となった。この流れを維持・発展させるためにも、昨年に開拓した新規顧客を古典芸能の継続的なリピーター顧客に育て、更なる愛好者の拡大を図る。			
開催日時	平成22年10月25日(月) 開演18:30			
会場	米子市文化ホール メインホール			
入場料 (友の会・団体)	特等 5,000円 (4,500円)	一等席 4,000円 (3,500円)	二等席 1,500円	大学生以下・外国籍の方 1,000円
集客状況	入場者数 608名	設定席数 643席	集客率 95%	
事業費状況	予算額	収入 2,613,000円	支出 3,305,000円	収支比率 79%
	決算額	収入 2,305,500円	支出 2,716,220円	収支比率 85%
来場者アンケート (主なもの) 回答者数 220名	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ丁寧な演出、演技で初心者には大変良かった。 ・とてもおもしろかったです。狂言がこんなに笑えるものだと知りませんでした。 ・この歳(60代)になって古典芸能に触れてみたいと思いました。実物は迫力があり、楽しく拝見しました。 ・地方で文化の高い芸術を見せていただき感謝します。 ・開場をもう少し早くしてほしい思います。 ・広報はテレビ、ラジオ等多くあった方が良い。 ・鳥根でももっと広くポスターやチラシを置いて広報してください。 			
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて鑑賞したという方が32%あり、新規鑑賞者の開発に繋げることができた。 ・開催日をとりアート西部地区事業の開催期間の翌日にするこで、とりアートと連携(西部地区事業においてプレ事業の実施、狂言公演も西部地区事業との認識をしていただき、広報宣伝・販売促進への協力など)して事業を推進することができた。 ・鳥取大学の留学生に対し、日本の伝統的な文化である古典芸能のレクチャーを行い、参加した留学生のほぼ総数に近い29名を動員することができ、留学生に日本の文化を紹介する良い機会となった。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入場者に関しては、大学生以下と男性鑑賞者が少なく、引き続いての課題である。 ・古典芸能への顧客の固定化が課題である。 			
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い伝統芸能をリーズナブルな価格で鑑賞できる機会は、貴重であり、財団が担う公共的役割にふさわしい事業である。 ・新規顧客が3割以上あり、新たな鑑賞者を増やすことになり、これからの広がりになると感じた。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生等へのチラシ配布等によるアプローチにもかかわらず少なかったのは、保護者へのアプローチの仕方も要因かもしれない。子どもだけでは入場できないし、保護者が行く気になる工夫が必要である。 ・若い世代や男性を新規の観客として開拓して行くには、本公演単体での努力や工夫もちろん必要であると思うが、財団で取り組んでいる様々な事業間の連携のなかで進めて行くことで、より効果的な成果が得られるのではないかと思う。 ・狂言に限らず古典芸能の足し見方等のレクチャー的な事業も必要ではないかと感じる。 			
今後の対応、 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生以下と男性鑑賞者への対策としては、お父さんと子どものセット割引やおじいさん・おばあさんと孫のセット割引など、こちらから働きかけができるチケット販売や提案を検討していく。→検討中 ・広報においても、県を超えた積極的な広報活動のみならず、「潜在的な鑑賞者の掘り起こし」を有効に行えるターゲットの分析、リピーターになり得る鑑賞者層への継続的な情報発信、前例踏襲にならないような広報宣伝先も検討していく。 ・事業間の連携やレクチャー的な事業については、ARTS FOR EVERYONE 創造への扉、ココロのサプリーなどと連携し、実施していく。→実施中 			